

農地の面的集積に向けた支援

湖東農業農村振興事務所農産普及課

【普及活動のねらい・対象】

愛荘町の豊国学区を中心としたエリアは、大規模農家数名による耕作受託がすすんでいる地域です。地主との相對契約を中心とした農地の利用権の移動が行われていますが、担い手間での面的集積がうまく行われておらず、また、特定の農家に集中する傾向が強かったようです。近年、作業性の向上・水管理面から、農地の面的集積をすすめるため、担い手農家間で圃場を交換して耕作されている事例が出てきています。地域内では集落営農組織を強化し、水稻の協業化をすすめる集落が出てきており、認定農業者と農地の棲み分けが必要になってきています。

農地の面的集積に向けて、第三者機関が入って検討・調整する場の強化を求める声が認定農業者を中心に高まっています。そのために、以下の普及指導項目を掲げ、町内で農地調整の取組がすすむように支援しました。

東円堂集落の若手の担い手を中心とした農地の棲み分け方法の検討

集落営農(豊満、苅間、畑田)と認定農業者間の地域内の棲み分け方法の検討

農地利用集積円滑化団体の機能強化支援

特に関係機関が連携した担い手の棲み分け方法の検討、地主との意見調整方法の検討

【普及活動の成果】

農地利用集積円滑化事業の推進と併せて、地域での集積円滑化団体の活動強化に向けて支援しました。愛荘町ではJAが主体になり事業は推進される方向で、数年前まで取り組んでいた認定農業者・集落リーダー・JAの農地受託会社が連携して農地を調整する方向で固まりました。また、認定農業者群に対して農地集積の必要性と対応方法について、研修会や先進事例調査を行い意識の醸成を図りました。認定農業者間における農地の面的集積の認識は高まってきています。認定農業者が集中する地域における農地調整は、一番面積の大きい農家からの取組が鍵を握っています。

<今後の課題>

重点的にすすめる予定であった豊国学区では、農家間の関係が複雑で、当初計画した若手世代を中心とした調整は出来ませんでした。時間をかけながら農家間で自らが調整できるように、今後も情報提供しながら意識啓発をすすめる必要があります。特に親世代の意識改革が難しいので、2代目層を中心に先進事例の情報提供と導入が必要です。